
IISEE Newsletter No.59 Aug. 20, 2010

国際地震工学センター ニュースレター 第 59 号 2010 年 8 月 20 日発行

+++++ Contents +++++

1. 国際地震工学センター 新センター長より

2. 古川国際地震工学センター長退任のご挨拶

+++++

=====

[1] 国際地震工学センター 新センター長より



安藤 尚一(工学博士)

この 8 月から国際地震工学センター (IISEE) の一員となり、世界の多くの関係者の皆様と接する機会が出来ることを大変うれしく思います。前職が国際連合地域開発センター (UNCRD) の防災計画兵庫事務所長だったことから、多くの地域や都市で急速に進んでいる開発によって脆弱性が増し、世界的な地震安全が急務であると、強く感じております。1960 年に開始された国際地震工学研修の歴史を振り返りますと、東京で開かれた第二回世界地震工学会 (WCEE) での開発途上国の若い研究者の研修機会についての議論と共通認識が契機となっていました。第一回研修は東京大学が中心となり、第 2 回目後半の 1962 年 1 月からは建築研究所 (BRI) に設立された IISEE が研修を行っています。これまでに 96 の国と地域のおよそ 1500 名の研修生が、IISEE のコースを卒業しました。IISEE の役割は、コースの創設者の思い描いた方向に沿って拡大してきました。2007 年には、地震学・地震工学の研究・研修の世界ネットワークとして、また巨大災害時の国際協力のバックアップシステムとして UNESCO と共に建築・住宅地震防災国際ネットワーク (IPRED) を構築しました。(2010 年 4 月末時点で 8ヶ国の機関が参加)さらに 2006 年からは政策研究大学院大学 (GRIPS) と国際協力機構 (JICA) のご協力とご尽力のもと、一年間のコースで学んだ研修生に修士号が与えられるようになりました。これまでのすべての関係者の皆様のご尽力とご理解に、深く敬意を表しますとともに、今後とも世界各地から参加する研修生に対して、また地震学及び耐震性のある建築や構造物

に関する知識を通じて多くの国や地域でサステナブルな社会を作る機会を広く提供する IISEE の活動に対しても、継続的なご支援とご配慮を賜りますよう、よろしくお願い致します。

最後に、この場をお借りして IISEE の 1962 年の研修生である Teddy Boen 氏、インドの Arya 教授、IISEE に深く貢献されている石山先生達が 1986 年に作った IAEE の在来工法の耐震化ガイドラインの改訂版を作成中で、その案に対するご意見を広く求めていることを紹介します。詳しくは建研 IISEE ウェブ サイト(<http://iisee.kenken.go.jp/>)の右下欄をご覧ください。

安藤尚一 (博士)

建築研究所 国際地震工学センター長

[2] 古川国際地震工学センター長退任のご挨拶

4年4ヶ月のセンター長としての任期の後、2010年8月1日付で国際地震工学センター長を退任しました。1984年10月に IISEE に入ってから、ここで仕事をして4半世紀以上になります。ということは1962年1月に IISEE が設立されてからの半分以上の歴史を見てきたことになります。この26年間に、540名のレギュラーコース研修生を含む約940名の IISEE 研修生にお会いしてきました。そして、国際的な会合で再び多くの皆さんに会いました。時にVIPとして対応いただきました。会合での歓待に感謝いたします。私は8月1日に IISEE を離れましたが、建築研究所の中に研究専門役としております。私の新しい任務には IISEE に対するアドバイスが含まれており、今後とも IISEE の研修プログラムに参画してまいります。近い将来、再び、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

古川信雄 (博士)

建築研究所 前国際地震工学センター長

このニュースレターは、これまでの研修生（英語メールのみ）と関係者の方々に
お送りしています。皆様のご意見や情報をお待ちしております。（編集：J.S.）

Email: iiseenews@kenken.go.jp

website: <http://iisee.kenken.go.jp>

ニュースレター バックナンバー : <http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>
